１１月２１日

聖書　ローマ人への手紙４章５～８節

罪をおおわれた幸いな人たち

4:5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

4:6 ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。

4:7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、幸いである。

4:8 主が罪を認めない人は幸いである。」

創世記からアブラハムの信仰を学んで来ました。
アブラハムの奥様のサラが１２７才で天に召され、
サラを埋葬するためにヘテ人から
マクペラの洞窟のある畑を購入しました。
子孫は空の星の様に
土地はこのカナンの全地を与える約束の
小さな小さな印を与えられてアブラハムの大きな使命は終わりました。

はるばるカルデヤのカルデヤのウルから約束の地、カナンに来ましたが、アブラハムが生涯かけてゲットしたのは一人の子、妻を葬る墓地のわずかな土地。

それも人生の晩年においてでした。

功こうなり名をあげる成功の人生ではありませんでした。しかし神様の約束を信じ続けていました。

兆候の全く見えない時にも信じ続けました。

その信仰を神様は義と認めてくださいました。

4:5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

アブラハムには結果を残し誇れる働きはありませんでしたが神様の約束を信じ続けてそれがアブラハムの義、救いとなりました。

良き働きをして多くの財産、多くの子弟、一族郎党を得るならそれが偶像となり、誇りとなり、高ぶりになります。

そのようになってもひたすら主に栄光を帰す人生こそ

義とされる信仰の人生です。

結果を残して誇り高ぶることは罪で不信仰ですが
結果を出すことが出来ないでひがんだり
劣等感を持ったり人を妬むことも
不信仰の罪であります。
いかなる場合でも主を信じ、信頼して
栄光を主にお返しすることが
義とされる神様に受け入れられる信仰であります。

６節で話題がアブラハムからダビデに進展します。

ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。
新共同訳聖書
働きがなくても、その信仰が義と認められます。
同じようにダビデも、
行いがなくても神に義と認められた人の幸いを、こう言っています。

働きがなくても　行いがなくても　と対照的に表現されています。

行いのないダビデも信仰によって義とされた幸いを詩篇で詠っています。
その詩篇をパウロは引用しています。
旧約聖書を代表する二人の人物、アブラハムとダビデ。
アブラハムは働きがなくても信じて救われた。
ダビデは良き行いがなくても、信仰によって救われた喜びを詩篇で歌っています。
パウロは旧約聖書の事例を挙げて信仰による救いを語っています。

ダビデの人生のテーマは行いです。
ダビデには大きな働き、勇敢な行いが沢山あります。

ダビデは少年の頃、ペリシテの大男、巨人、戦士ゴリアテに勇敢に立ち向かって倒しています。イスラエルの兵士となり、勇敢に戦って多くの勝利を収めています。民衆はサウルは千を倒し、ダビデは万を倒したと喜びの歌を歌いました。
それを聴いたサウル王はダビデをねたんで殺そうとしました。

ダビデはサウル王から逃れるために逃避行をしなければならなかった。

ダビデはエンゲディの荒れ野に逃げている時、サウルは３０００人の精鋭部隊でダビデを追い、ダビデは洞窟に逃れ息を潜めていた。

なんとそこにダビデたちが隠れていることを知らずにサウル王は用を足しに洞窟に入って用を足していた。

ダビデの部下は今こそサウルを倒して自由になる日が来ました。と言った時も

主が油注がれた手を出すことは出来ない、と何もせず、サウルの後ろまで近づいて衣の裾を切り取りました。

サウルが用を足して外に出たとき、
ダビデは衣の端を手に取って見せながらサウル王に
主に油注がれた王に手を下すことはしません。
この衣の裾がその証しです、と告白しました。

ダビデは王となるとそれまでエブス人が占拠していた難攻不落の町エルサレムをエブス人の手から取り戻して

そこに神殿を建てようと資材の準備をしました。

エリの時代から荒れ野にあった契約の箱をエルサレムに安置し、ソロモンが神殿建設をしやすいように資材の準備をダビデはしました。

このようにダビデの人生は神を信頼し、神を恐れる
良い行いの人生でありましたが
ダビデの人生に痛恨の事件、今までのダビデの良い行いのすべてを帳消しにしてしまうような事件が起こりました。
それはサムエル記第二１１章に書かれています。

11:1 年が改まり、王たちが出陣するころ、ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエルの全軍とを戦いに出した。彼らはアモン人を滅ぼし、ラバを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。

11:2 ある夕暮れ時、ダビデは床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、ひとりの女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。 11:3 ダビデは人をやって、その女について調べたところ、「あれはヘテ人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバではありませんか」との報告を受けた。 11:4 ダビデは使いの者をやって、その女を召し入れた。女が彼のところに来たので、彼はその女と寝た。――その女は月のものの汚れをきよめていた――それから女は自分の家へ帰った。 11:5 女はみごもったので、ダビデに人をやって、告げて言った。「私はみごもりました。」

ダビデは王となり国が安定しました。
今までは戦いの先頭に立って民を導いていましたが
緊張感がなくなったのか１１章では先頭にいません。一緒に戦っていません。夕暮れ時まで昼寝、惰眠をむさぼっていて、屋上を当てもなく歩いている時に
からだを洗っている女性を見て、王宮に召し入れて
罪を犯しています。
妊娠が発覚するとバテシェバの夫ウリヤを戦場から召喚して家に帰って妻と一緒に寝ることを勧め証拠隠滅を計ります。真面目なウリヤは部下が野宿して戦っているのに妻と一緒に寝ることは出来ないと王宮の前で野宿していました。

この隠蔽工作が失敗するとダビデはウリヤの上官ヨアブに手紙を書いて、ウリヤを戦場の前線に送り、戦っている最中にウリヤを残して兵を引き上げ彼が打たれて死ぬように。ウリヤは何も知らずこの手紙を持って戦場に帰りこの手紙を上官ヨアブに渡しています。
その結果、ウリヤは戦場で戦士。
ダビデはバテシェバを妻にし、子供が生まれました。
ダビデはこれで決着がついたと思っていました。

人間の目をごまかすことは出来ても神様をごまかすことは出来ません。神様は預言者ナタンを通して働かれます。
12:7 あなたがその男です。
12:9 どうしてあなたは【主】のことばをさげすみ、わたしの目の前に悪を行ったのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。

ダビデはウリヤから妻を奪う盗みの罪。
姦淫の罪。ウリヤを殺す殺人の罪を犯しています。

32:3 私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。
32:4 それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髄は、夏のひでりでかわききったからです。 セラ
32:5 私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を【主】に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ

ダビデは行いがなくても、行いとは別の道で
救い主を信じる信仰によって罪赦され、罪の赦された幸い
を歌っています。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」使徒の働き１６章３１節

ローマ人への手紙10:9
なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。
10:10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

祈り